

日仏会館展覧会  
江戸の庶民絵画  
Exposition de peintures d'Ōtsu

# 大津絵

2016年7月8日(金)  
～ 10日(日)

日仏会館ギャラリー (東京・恵比寿)  
Galerie de la Maison franco-japonaise

[www.mfj.gr.jp](http://www.mfj.gr.jp)



大津絵は、江戸初期から明治にかけて、職人によって描かれた無銘の庶民絵画である。東海道最大の宿場である大津の西端、追分・大谷界限において、土産物として旅人に安く売られていた。初期には「青面金剛」、「雨宝童子」のような、民間信仰の対象である神仏画が主だったが、時代が下がるにつれて世俗画や戯画が現れ、画題は百二十種あまりにもものぼる。量産するために略画化され、型紙（合羽摺）を使って泥絵具で素早く描かれた。

独特の素朴な描法で鬼、人物、鳥獣が描かれ、擬人化や戯画化によって庶民の諧謔や諷刺の精神を表している。また、道歌を添えて教訓的な意味合いが加えられたりした。江戸時代には、全国的に人気を博した。

本展の約五十点の作品すべては、個人コレクションから借用している。初公開の大津絵も数点あり、中には最近発見された、新出の画題の「鬼奴」がある。残存作例が少ない「不動明王」、「雨宝童子」、「菩薩」、「塗笠美人」、さらにフランスやスペインから里帰りした作品も含まれている。江戸初期の大津絵神仏画にはじまり、大正、昭和前期まで活躍した画家たちの我流の創作大津絵にいたるまで、様々な作品を紹介する。

最後に、貴重な作品を特別に御出品いただいた所蔵者の方々に厚く御礼を申し上げます。

主催者

◎本展開催に当たり、ご協力頂いた方々、機関は次の通りである（敬称略）。

國學院大學博物館、  
大津市歴史博物館、  
古美術天寶堂、羽黒洞、  
ポール・ベリー、  
リカル・ブル、岩崎一美、  
丸山清孝、野中穎僊、  
尾久彰三、嶋田華子、  
鈴木堅弘、横谷賢一郎、  
ほか。

◎写真提供

大津市歴史博物館、  
大屋孝雄、  
セバスチャン・ルベーク、  
Mingei Japanese Arts (パリ)

表紙 —— 鬼の念仏（部分）

江戸期  
福原五岳  
（一七三〇―一七九七）  
賛  
個人蔵



右 —— 不動明王

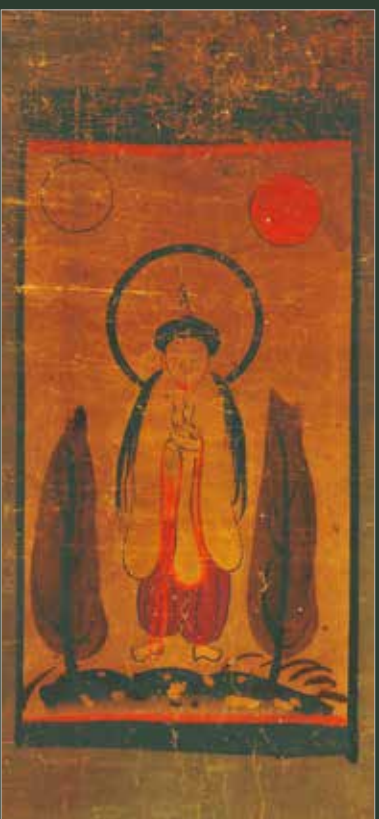
江戸期

古美術天寶堂蔵

左 —— 雨宝童子

江戸期

古美術天寶堂蔵







左 — 鬼の念仏  
江戸期  
木村東介旧蔵  
個人蔵

右 — 鬼の念仏  
江戸期  
明和四年  
(二七七) 賛  
梅原龍三郎旧蔵  
個人蔵

左 — 鬼奴  
江戸期  
秦秀雄旧蔵  
個人蔵

右 — 菩薩  
江戸期  
古美術天寶堂蔵



右 — 馬乗り若衆  
江戸期  
黄谷軒藏

左 — 牛若丸  
江戸期  
尾久彰三藏



右 — 鬼の行水  
江戸期  
木村東介旧藏  
個人藏



左 — 外法の梯子剥り  
江戸期  
木村東介旧藏  
個人藏







左  
——  
桃に鳩  
江戸期  
山内神斧から  
エウゲル・セラに寄贈  
個人蔵（バルセロナ）



右  
——  
座頭  
江戸期  
個人蔵（パリ）



左  
——  
藤娘  
江戸期  
古美術天宝宝堂蔵

右  
——  
塗笠美人  
江戸期  
ウケット・ベレス旧蔵  
丸山清孝蔵





左

若狭物外  
九種大津絵図  
(做補瀨日年)  
昭和二年(一九二七)  
白澤庵藏



右

潤魚  
鬼念仏図  
大正期  
個人藏



左

富田溪仙  
六種大津絵図  
大正三年(一九一四)  
白澤庵藏



右

塩川文麟  
三種大津絵図  
慶応二年(一八六六)  
個人藏



7月25日、角川ソフィア文庫より刊行

角川ソフィア文庫

◎主権

日仏会館フランス事務所

◎企画

クリストフ・マルケ

〔日仏会館・フランス国立日本研究センター〕

◎協力

國學院大學博物館、

大津市歴史博物館、

平成28年度文化庁

地域の核となる美術館・

歴史博物館支援事業

◎その他にも、

次の二カ所にて

大津絵の展示があります。

【國學院大學博物館】

7月4日～10日

【日本民藝館】

6月21日～8月21日

「沖繩の工芸」展にて一部併設展示

Supported by  
the Agency for Cultural Affairs  
Government of Japan  
in the fiscal 2016

